

あ

っと思ったら 認知症を知ってみませんか？

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、脳の働きが悪くなったりすることで、日常生活に支障が出てくる状態です。誰にでも起こりうる身近な「脳の病気」です。

認知症を引き起こすおもな病気

アルツハイマー型認知症	脳の細胞が少しずつ死んで脳全体が縮んでいく。
レビー小体型認知症	レビー小体という特殊なたんぱく質が脳内に集まり、神経細胞が壊れたり減少して、神経を上手に伝えられなくなる。見えないものがはっきり見える幻視が特徴です。
脳血管性認知症	脳の中の血管がつまったり切れたりして脳に栄養や酸素が行きわたらず一部の細胞が死んでしまう。
前頭側頭型認知症	脳の一部である前頭葉と側頭葉の萎縮がみられる。社会性の欠如や抑制が効かなくなる。
アルコール性認知症	アルコールの多量飲酒により、脳が萎縮する。
軽度認知障害 (MCI)	認知症の一手手前の状態で、健康と認知症の中間段階です。もの忘れが主たる症状で、日常生活には問題がほとんどなく認知症と診断できない状態です。

認知症かもしれないと思ったら…

チェックしてみましょう

認知症による変化は、本人よりも周りの人のほうが気づきやすいことも多いため、ご家族などが一緒にチェックしましょう。
(出典:公益社団法人 認知症の人と家族の会)

☑もの忘れがひどい

- 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 同じことを何度も言う・問う・する
- しまい忘れ・置忘れが増え、いつも探し物をしている
- 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

☑人格が変わる

- 些細なことで怒りっぽくなった
- 周りへの気づかいがなくなり、頑固になった
- 自分の失敗を人のせいにする
- 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

☑判断・理解力が衰える

- 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 新しいことが覚えられない
- 話のつじつまが合わない
- テレビ番組の内容が理解できなくなった

☑不安感が強い

- ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 「頭が変になった」と本人が訴える

☑時間・場所がわからない

- 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 慣れた道でも迷うことがある

☑意欲がなくなる

- 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ふさぎ込んで何をすることも億劫がり、嫌がる

これは、医学的な診断基準ではなく、あくまでも目安となるものです。いくつか思い当たることがあれば、かかりつけ医や地域包括支援センターへご相談ください。

か

んがえ込まないで

相談して、対処の方法を知りましょう

認知症は早期発見・早期対応が大切です。容態によっては必要な医療・介護などが異なってきます。家族・身近な人・自分が「認知症かも…」と思ったら、かかりつけ医や専門機関、地域包括支援センターに相談して下さい。

なぜ、早期発見・早期対応が大切なの？

認知症は現在完治が難しい病気とされていますが、認知症の種類によっては、早期発見により早期からの薬の服用によって、進行を穏やかにしたりなど改善が期待できる場合があります。また、認知症に似た病気を発見できる場合や、症状に応じた適切な対応やケアによって認知症状がやわらいだり、落ち着いたりする場合もあります。



相談はどこにすればよいの？どこに受診すればよいの？

かかりつけの医師(主治医)

まずはかかりつけの先生に、お話をしてみてください。場合によっては、専門の医療機関を紹介してもらえます。

もの忘れ外来、精神科心療内科などの医療機関

例えば…

- 砂川市立病院認知症疾患医療センター
- 平岸病院
- 滝川市立病院(予約診療)
- 滝川脳神経外科病院
- 滝川メンタルクリニック
- 脳神経よしだクリニックなど

完全予約制。受診するには「もの忘れ相談医」または「かかりつけ医」からの紹介が必要です。



なかなか病院に行ってくれない、困り事があるなど心配な事がありましたら地域包括支援センターにご連絡・ご相談下さい。

赤平市地域包括支援センター(赤平市役所・1階) ☎0125-32-0661

こんな活動もあります

認知症初期集中支援チーム

認知症の困りごとや心配ごとに認知症初期集中支援チームがサポートします。医療・福祉・介護職の専門職がチームになって、認知症の人や認知症の疑いのある人、ご家族のもとにチーム員が家庭訪問してご様子を確認し、生活や介護上のアドバイスをしたり、病院受診や介護サービスの利用調整などを行います。